

(熊谷市) 記者クラブ取材情報

平成 25 年 11 月 27 日(水)発表
担当課：市長公室 政策調査課

事業の名称等 政策提言（マニフェスト）の取組結果について

1. 実施日時等 平成 25 年 11 月 27 日（水）
2. 会場・主催地 市ホームページ（11 月 27 日）及び市報（12 月 1 日）に掲載
3. 主催者・関係者
 - (1) 団体名等 熊谷市
 - (2) 代表者名 熊谷市長 富岡 清 TEL 048-524-1111
4. 事業内容
平成 21 年の市長選挙で掲げた市長の政策提言（マニフェスト）の 4 年間の取組結果を公表します。なお、政策提言（マニフェスト）は、6 つの政策分野と 58 の施策によって構成されています。
5. 目的・理由
取組状況を 1 年ごとに総括・評価をすることにより、任期の 4 年間を通じて、各施策を着実に推進しました。
6. 経緯・経過
1 年ごとの取組状況を、毎年 11 月の定例記者会見及び市報 12 月号、市ホームページで公表してきました。
7. 影響・効果
5 欄の目的に加え、市民に情報を公開し、市政に対する関心をより高めていただく効果があります。
8. この事業の実施による特記事項・PRポイント
市民の方が一目見て分かるように、施策ごとの達成度を★の数で表し、曖昧さを廃しています。また、進捗率と自己評価を発表することで、マニフェスト全体としての取組状況を分かりやすくお伝えしています。
 - (1) 県内の状況
上尾市、行田市、秩父市などが実施をしています。
 - (2) 他市が実施している事業に比べて本市の特色
政策提言（マニフェスト）の各施策を公表するだけでなく、進捗状況を 1 年ごと、かつ、分かりやすく公表しています。

※ 資料の有無（ 有 ）

担当者 津留（つる）

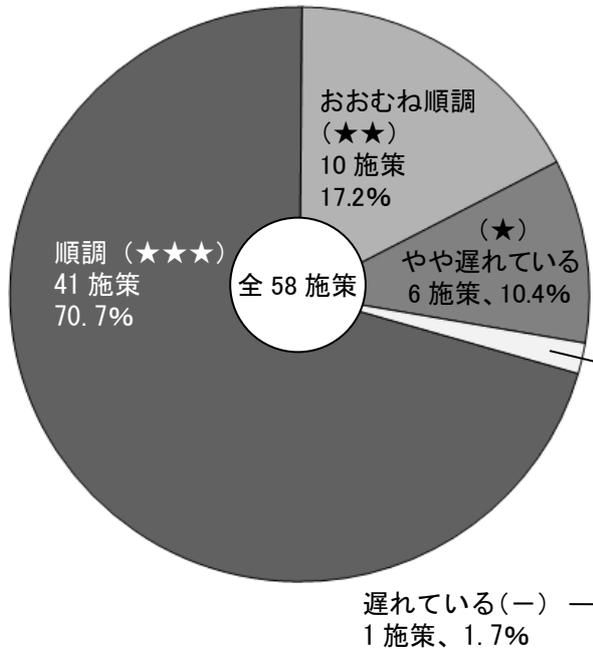
連絡先 TEL 048-524-1111（内線 369）

政策提言(マニフェスト)の取組結果について

進捗率 86%、自己評価 84 点

昨年比：4%、5 点アップ

4年間の取組結果



新熊谷市となって 2 期目の市長任期が 11 月 5 日をもって終了しました。そこで、この 4 年間の市長の政策提言(マニフェスト)の取組結果をお知らせします。

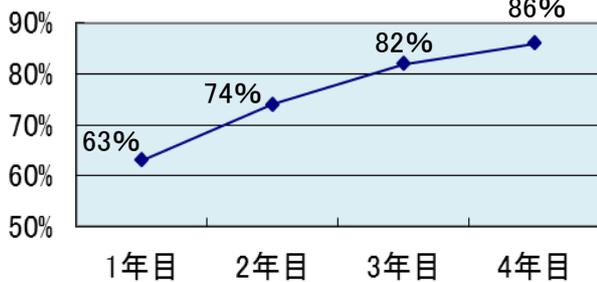
1 概要

58 施策にわたる政策提言(マニフェスト)の達成度を、次の 4 段階で評価しました。

順調 (★★★★)	3 ポイント
おおむね順調 (★★)	2 ポイント
やや遅れている (★)	1 ポイント
遅れている (-)	0 ポイント

58 施策の評価の内訳は左の円グラフのとおりであり、合計ポイント数は 149 ポイントとなりました。

進捗率の推移



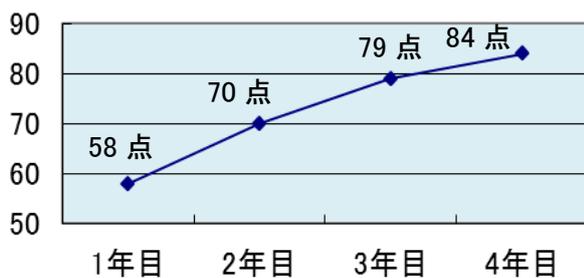
2 進捗率

58 施策が全て順調(★★★★)であれば、174 ポイント(58 施策×3 ポイント)となることから、次の計算式により、進捗率を 86% としました。

(計算式) $149 \text{ ポイント} \div 174 \text{ ポイント} = 86\%$

※ 小数点以下第 1 位を四捨五入しています。

自己評価の推移



3 自己評価

上記の結果を踏まえた市長の自己評価は、84 点です。

4 この4年間の主な成果

(1) 市民が元気で健康なまちをつくります

- ・ 第95回日本陸上競技選手権大会を本市に誘致しました。また、熊谷さくらマラソン大会や選抜高校女子サッカー大会「めぬまカップ in 熊谷」、熊谷めぬま駅伝大会等の運営に取り組むとともに、全国選抜高校ラグビー大会や埼玉サイクリングフェスティバル等、様々なイベントを支援しています。
- ・ 不妊治療費として、上限額10万円を通算5年度まで助成しています（助成実績：延べ359件）。
- ・ 旧市立女子高校をリニューアルして、熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」をオープンしました。くまびあは、グラウンドや体育館に加え、音楽・演劇練習室、料理講習室、宿泊施設、食堂等を備えています。
- ・ 熊谷東小学校区内に、熊谷東公民館を中央消防署との複合施設として建設しました。

(2) 子どもたちが輝き、夢と希望がもてるまちにします

- ・ 中学校卒業までのこども医療費の窓口無料化を引き続き実施しています。また、行田市、深谷市、寄居町の医療機関でも窓口無料で受診できるようにしました。
- ・ 小・中学校の屋内運動場のうち、旧耐震基準に基づいて造られた9棟を建て替えました。
- ・ 市立児童クラブを5か所増やして36か所にし、定員を1,335人から1,505人に増やしました。
- ・ 地域子育て支援拠点を5か所増やして18か所にしました（平成24年度は、延べ89,753人が利用しました。）。

(3) 活気とにぎわいのあるまちをつくります

- ・ インターネット上の博物館「熊谷デジタルミュージアム」を開設し、市内の文化財やその保護事業を紹介しています。ブログ「熊谷市文化財日記」の総閲覧者数も22万人に達しました。
- ・ 旅行情報誌「るるぶ」の特別編集版「るるぶ熊谷」を2回発行し、本市の魅力を市内外に広く発信しました。
- ・ 企業誘致と雇用機会の拡大を図るため、「熊谷市産業立地促進条例」（旧条例）と「熊谷市企業の立地及び拡大の支援に関する条例」（現条例）を活用し、5社の事業所新設と14社の増設、1社の移転を支援しました。
- ・ 国宝・歓喜院聖天堂（妻沼聖天山）を中心とした区域に、案内板や観光トイレ、照明灯、連絡道等を設置し、観光拠点としての整備を進めました。

(4) 安全と安らぎのあるまちをつくります

- ・ 特例市では初となる地球温暖化防止活動推進センターを指定し、地球温暖化対策の普及・啓発の推進を図っています。
- ・ 大規模災害の発生時にその活躍が大いに期待される自主防災組織の設立と活動を支援し、組織率を 39.0%から 65.3%に向上させました。
- ・ 家庭用及び業務用の太陽光発電システムの設置者に補助金を支給して、その普及を推進しました。市内における家庭用太陽光発電システムの設置数は、4,006基増えて 4,731 基になりました。
- ・ 低公害軽自動車を取得した市民等に対し、奨励金（軽自動車税相当額）を支給し、低公害車への乗換えを推進しました（支給実績：669 件）。
- ・ 老朽化した中央消防署を移転し、熊谷東公民館との複合施設として建て替えました。また、荒川分署との統合や救助工作車の配備等により、市街地の消防力を強化しました。

(5) 便利で機能的なまちをつくります

- ・ 老朽化した南運動場(野球場)を解体・芝生化し、子どもから高齢者まで幅広い年齢の市民が利用できる「伊勢町ふれあい公園」として再生しました。災害時の一時避難場所にも指定しています。
- ・ 江南行政センターを起点に熊谷駅南口と籠原駅南口を交互に連絡する「ほたる号」と、熊谷駅周辺の市街地を巡回する「直実号」の運行を開始し、市内循環バスの路線を 4 系統から 6 系統に増やしました。
- ・ 籠原駅周辺にある新寄居踏切と久保島踏切の拡幅工事を行い、子どもたちを始め、歩行者や自転車等が安全に渡れるようにしました。
- ・ 東武熊谷線跡地の一部を整備し、第 2 北大通線から大幡中学校北側の市道につながるまでの区間を供用開始しました。

(6) 効率的な行財政経営を進めます

- ・ 給与水準の適正化と職員総数を 85 人削減したことの相乗効果により、平成 24 年度の人件費を平成 21 年度と比べて約 18 億円削減しました。
- ・ 市債の借入額抑制と繰り上げ償還等により、平成 24 年度末の市債残高を平成 20 年度末より約 114 億円少ない約 646 億円にまで削減しました。
- ・ 「行政改革大綱」に基づいて公の施設のあり方を検証し、体育館やグラウンド等、新たに 14 の施設で指定管理者制度等を導入しました。これで指定管理者制度等を導入している施設は、合計 38 施設となりました。
- ・ 特定行政庁への移行により、全ての建築物の建築確認や許認可等が本市で行えるようにしました。

5 政策提言ごとの取組実績

(1) 市民が元気で健康なまちをつくります

番号	政策提言	取組実績等	達成度
1	観るスポーツを誘致し、参加し、楽しむスポーツを振興します	第95回日本陸上選手権大会を本市に誘致しました。また、熊谷さくらマラソン大会や選抜高校女子サッカー大会「めぬまカップin熊谷」など、市民の皆さんが参加したり、観戦したりして楽しめる大会の運営に取り組んでいます。さらに、全国選抜高校ラグビー大会や埼玉サイクリングフェスティバルなど、様々なイベントを支援してスポーツの振興を図っています。	★★★★
2	不妊治療費の助成を拡大します	上限額10万円を通算5年間助成(平成22年4月1日以後の治療分から適用)し、359件、計3,050万5,494円の助成を行いました。	★★★★
3	ふれあいいきいきサロンなど、高齢者等が楽しく過ごせる場を増やします	地域の高齢者や障害者等の交流の場として、市のふれあいいきいきサロン(ダモンネみはらし)を平成21年度から平成23年度まで委託事業として開設し、民間事業に移行した後は、事業の一部に補助金を交付しています。コンサートやパソコン・ヨガなどの教室や、フリーマーケット、高齢者の公開ラジオ収録など、地域の皆さんが協力して、季節に合わせたイベントが開催されています。 また、社会福祉協議会のふれあいいきいきサロンは地域の高齢者と市民(ボランティア)が気軽に集まって親睦を深めることを目的として開催されています。	★★★★
4	校区連絡会の地域計画づくりを支援し、住みよい地域づくりを進めます	地域計画づくりのモデル校区として星宮小学校区と桜木小学校区を選定しています。両校区ともに、平成25年度中の完成を目指して計画を策定中です。	★★
5	高度救急医療を視野に入れた地域医療体制を充実させます	第二次救急病院群輪番制事業により、休日及び年末年始の昼夜並びに平日夜間の二次救急医療を確保しました。熊谷地区の参加病院は熊谷総合病院・熊谷外科病院・埼玉慈恵病院・関東脳神経外科病院の4病院、太田地区の参加病院は太田記念病院、本島総合病院、堀江病院、太田福島総合病院、城山病院、宏愛会第一病院の6病院です。 また、小児救急医療支援事業により、熊谷・深谷・児玉地区が連携し、行田総合病院と深谷赤十字病院において輪番で休日と夜間の小児診療体制を整えました。 さらに、県小児医療センターから深谷赤十字病院へ非常勤医師等を派遣する事業費用の一部を熊谷市を含む県北8市町が負担することによって、小児救急医療の充実を図りました。	★
6	市立女子高校跡地を生涯学習、教育、スポーツの場にします	市民が生涯にわたってスポーツ・文化に親しむことのできる生涯学習センターとして、熊谷市スポーツ・文化村「くまぴあ」を平成25年10月1日に一部オープンしました。グラウンドや体育館に加え、音楽・演劇練習室や料理講習室、宿泊施設や食堂などを備えています。 また、第2期工事の実施設計を進めています。	★★★★
7	熊谷東小学校区内に公民館を新たに建設します	平成25年2月に工事を完了し、4月1日に熊谷東公民館としてオープンしました。	★★★★

(2) 子どもたちが輝き、夢と希望がもてるまちにします

番号	政策提言	取組実績等	達成度
8	中学校卒業までの子どもの医療費の無料化を継続して実施します	中学校卒業までのこども医療費の窓口無料化を継続して実施しています。また、深谷市、行田市、寄居町の医療機関でも窓口無料で受診ができるようにしました。	★★★
9	小・中学校の屋内運動場を順次、改築します	旧耐震基準で建設された小・中学校の耐震化が必要な屋内運動場を9校で建て替えました。改築が必要な残りの屋内運動場についても、順次改築を進めていきます。	★★★
10	学力向上補助員と学校教育支援者を増員します	市内の全小・中学校に学力向上補助員を配置して、個に応じたきめ細やかな指導を実施し、埼玉県の実績調査の結果などでも全ての教科で県の平均を大きく上回る成果を挙げています。また、地域の学校教育支援者の協力を得て、多様な教育活動や体験的な活動の充実を図っています。	★★★
11	外国人英語指導助手を市内全小・中学校に配置します	小学校では、5・6年生全てに年間35時間以上の外国語活動を担任との協同授業で実施しています。また、中学校では、英語教員と協同で授業を実施し、英語教育、国際理解教育などを推進しています。	★★★
12	0歳児保育を実施する保育所を増やします	市内全域11か所の市立保育所で0歳児保育(8週から)を行っています。平成25年11月1日現在、42人の0歳児が入所しています。	★★★
13	児童クラブを増やします	市立児童クラブを5か所増やして、36か所にしました。また、定員を170人増やして、1,505人にしました。	★★★
14	子育て広場を増やします	子育て親子が交流をしたり、悩み相談をしたり、子育て関係情報を得ることのできる「地域子育て支援拠点」の数を5か所増やし、18か所にしました。	★★★
15	母子家庭に支給されている児童扶養手当を、他市にさきかけ、父子家庭にも支給します	児童扶養手当法の一部改正によって、平成22年8月1日から父子家庭も支給対象となり、その費用の3分の2を市が負担しています。平成25年11月1日現在での受給世帯は75世帯です。	★★★
16	学校給食施設の整備を進めます	老朽化した調理設備の計画的更新を進め、単独式調理場10校に11機種27機の備品を整備しました。	★

(3) 活気とにぎわいのあるまちをつくります

番号	政策提言	取組実績等	達成度
17	自転車道整備やバリアフリー化を進め、回遊性の向上を図り、中心市街地のにぎわいをつくります	中心市街地活性化基本計画が国の認定を受けられるように、計画内容の見直しを行い、事業の補助を受ける予定の省庁とも事前相談を実施しました。また、中心市街地活性化協議会を設立し、頂いた意見を基本計画に反映しました。 自転車道整備とバリアフリー化は、国の認定を受けた上で、都市再生整備事業として国土交通省の補助を受けながら順次整備する予定です。	★
18	補助を伴う融資により、中小企業経営を支援します	市制度融資を利用して借入金を約定どおり完済した事業者には信用保証料(計1,852万2,788円)を補助しました。また、約定どおり返済中の事業者には金融機関への支払利子(計1億12万7,447円)を補助し、中小企業者を資金面から支援しました。	★★★

番号	政策提言	取組実績等	達成度
19	農地・水・環境保全向上対策事業の取り組みを支援します	39の活動組織へ円滑な活動ができるよう事業支援を行っています。	★★★★
20	「熊谷フィルムコミッション」により映画撮影等の支援を行い、市のPRに努めます	映画やテレビドラマ、CMなどの撮影依頼に対し、市内ロケーションの紹介や調整などを行っています。また、撮影関係者に「るるぶ熊谷」などの観光情報誌を配布して、市のPRを行っています。	★★
21	熊谷中央地区のほ場整備を推進します	埼玉県が行うほ場整備事業に対し、市負担金(計6億4,890万円)を支出し事業の推進を図りました。	★★★★
22	市民の食の安心・安全を図るため、地産地消運動を進めます	熊谷産農産物ののぼり旗を作成し、スーパーやJA直売所などに提供し、地産地消の機運を高めています。 また、「地産市場かまくら」への補助を行っているほか、隔週の日曜日に星川お祭り広場で「星川あおぞら市」を開催しています。	★★
23	熊谷ブランド化を図り、地域物産情報の発信を進めます	市内と近隣市に「雪くま」の折込チラシを配布するなどのPR活動を実施しました。 また、市報やホームページの活用に加え、熊谷市産業祭や「彩の国食と農林業ドリームフェスタ」を始めとした県内外のイベントに出展し、熊谷の観光と地域物産の情報を発信しています。	★★
24	商店街の街路灯を省エネ電球(LED)に交換する支援をします	これまでに185基の街路灯をLED化するための補助を実施し、電気料は従前よりも低減され大きな効果が出ています。	★★★★
25	祭りなど各種伝統行事の運営を支援し、観光客誘致に努めます	各種広告媒体の活用やイベントへの出展により、本市の観光と地域物産の情報を発信し、観光客の誘致に努めています。 また、旅行情報誌「るるぶ」の特別編集版「るるぶ熊谷」を2回発行し、JR高崎線の駅やJTBの北関東を中心とする支店などで配布するなどして、本市の魅力を市内外に広く発信しました。	★★★★
26	既存企業の支援を強化するとともに、地球環境等に配慮した企業の立地を進めます	企業誘致と雇用機会の拡大を図るため、「熊谷市産業立地促進条例(旧条例)」と「熊谷市企業の立地及び拡大の支援に関する条例(新条例)」を活用し、5社の事業所新設と14社の増設、1社の移転を支援しました。 また、市内の企業に調査票を郵送したり直接訪問したりすることで企業立地に係るニーズの把握を行っています。	★★★★
27	妻沼聖天山を中心にしたエリアを観光拠点として整備します	国宝・歎喜院聖天堂(妻沼聖天山)を中心とした区域に、案内板や観光トイレ、照明灯、連絡道の設置など、観光拠点としての整備を進めました。	★★★★
28	携帯電話を利用して、いつでも街角の情報、観光案内が受けられるシステムを導入します	「観光ガイドシステム」では、市内に点在する彫刻や文化資源などの案内板と案内マップに携帯電話読取用QRコードを掲載し、携帯電話を利用した文字や音声による案内を行っています。	★★
29	歴史的、文化的資産をデジタル化した「熊谷デジタルミュージアム」を開設します	平成23年度にインターネット上の博物館である「熊谷デジタルミュージアム」を開設し、歴史や文化などに関する情報を広く発信しています。また、ブログ「熊谷市文化財日記」でも積極的に情報発信を行っています。	★★★★

番号	政策提言	取組実績等	達成度
30	豊かな里山など地域の魅力的資源を活用した交流事業「熊谷型グリーン・ツーリズム」を進めます	市内観光名所の見学や農業体験と、収穫した農産物の調理など、地域資源を活用した熊谷型グリーンツーリズム事業を実施しました。なお、収穫体験した農産物は、栗、ねぎ、大和芋、ブルーベリー、さつま芋、いちご、たけのこです。	★★
31	テクノグリーンセンター用地に、県と共同で賑わい施設をつくります	共同事業者である埼玉県と整備の方向性についての検討を進めており、平成25年度末までには基本構想を策定する予定です。また、平成25年度は、施設内に計画されている「民間にぎわい施設」の導入検討調査を実施しています。	★★

(4) 安全と安らぎのあるまちをつくります

番号	政策提言	取組実績等	達成度
32	「あつさ はればれ 熊谷流」事業を充実し、先進的な環境プロジェクトを進めます	小・中学校などの市有施設で「みどりのカーテン」を実施しています。このほかに、市民、事業者に対して「みどりのカーテン補助金」を交付するとともに、「みどりのカーテン・コンテスト」を開催し、普及啓発を図りました。 また、熊谷駅前広場冷却ミスト事業などもクールシェアくまがやの連携事業として実施しました。 さらに、新たな事業として、メガソーラー発電事業(土地貸し)と市有施設屋根貸し太陽光発電事業に取り組んでいます。	★★★★
33	自主防災組織の組織率を引き上げます	自主防災組織の組織率を上げるため、次の取組を行っています。 ・自治会へ結成の依頼 ・自治会において結成前説明会の実施 ・自主防災組織リーダー研修会の実施 ・自主防災組織の訓練への職員派遣 ・自主防災組織の結成及び活動を支援するため、補助金を交付 ・市報へ啓発記事の掲載(年2回) ・市政宅配講座等で自主防災組織の重要性を説明 なお、平成25年11月1日現在の組織率は65.3%です。	★★★★
34	こどもエコクラブを各小学校区に設置し、「環境について自ら考え、自ら行動できる子」を育てます	こどもエコクラブの登録団体を30団体増やして、32団体になりました。	★★★★
35	家庭用太陽光発電設備の設置費用を助成します	住宅用太陽光発電システムの設置者に補助金(1,061件、計9,284万1,250円)を交付しました。市内での住宅用太陽光発電システムの設置数は4千基以上増えました。	★★★★
36	犯罪抑止に効果の高い青色防犯灯への交換費用を助成します	自治会が新設・灯具交換した防犯灯2,014灯のうち、427灯が青色防犯灯であり、計499万3,778円の補助金を交付しました。	★★★★
37	合併処理浄化槽の維持管理費用を助成します	合併処理浄化槽を適正に維持管理している市民に補助金(8,077件、1億3,100万9,000円)を交付しました。	★★★★
38	低公害自動車の軽自動車税に対して助成します	低公害軽自動車を取得した市民等に奨励金(軽自動車税相当額)を支給し、低公害車への乗り換えを推進しました。平成24年6月から申請受付を開始し、669台、計479万7,200円の奨励金を交付しました。	★★★★

番号	政策提言	取組実績等	達成度
39	企業の環境関係設備に対する課税上の支援をします	業務用太陽光発電システムを設置した企業に補助金(16件、計296万3,000円)を交付しました。	★★★
40	市街地の公園を市民の憩いの場として再生します	社会資本整備計画「誰もが安全で安心して利用できる公園づくり」を実施して、19の公園で出入口や水飲み場、トイレなどをバリアフリー化したほか、23の公園に健康遊具を設置しました。	★★
41	市民による公園の芝生化を進めます	芝生化された公園の数を7か所増やして11か所にしました。また、公園サポーター制度に取り組む公園の数を24か所増やして264か所にしました。	★★★
42	中央消防署を移転して整備し、消防力を強化します	老朽化した中央消防署を移転して、耐震性に優れるだけでなく、より高度な機能を備え、環境にも配慮した施設にしました。救助工作車を配備したほか、荒川分署を統合し、その車両と職員を加え、市街地の消防力を強化しました。平成25年4月から業務を開始しています。	★★★

(5) 便利で機能的なまちをつくります

番号	政策提言	取組実績等	達成度
43	橋梁の調査点検、維持管理を行い、長寿命化を図ります	職員により321の橋梁について点検を実施しました。	★★★
44	交通安全上、狭くて通行しにくい籠原駅東側などの踏切道の拡幅改良を進めます	新寄居踏切の拡幅工事を平成22年8月に完了しました。また、久保島踏切の拡幅工事を平成25年7月に完了しました。	★★★
45	南運動場を多目的広場として再生します	老朽化した南運動場(野球場)を解体・芝生化し、ジョギングコースや健康遊具、トイレ、駐車場などを備えた「伊勢町ふれあい公園」として、平成23年4月にリニューアルオープンしました。子どもから高齢者まで幅広い年代の市民の皆さんに御利用をいただいています。	★★★
46	市内循環バスは、75歳以上の運転免許証返納者の料金無料化を図るとともに、路線数を増やします	免許証を返納した70歳以上の方には、申請により無料で乗車できるバスを交付しています。平成25年11月5日現在の申請者数は348人です。 また、平成23年10月からは新たに2路線を増やし、6系統での運行を行っています。	★★★
47	街路樹による緑陰形成や路面温度を低下させる舗装等、地球温暖化防止の道路空間整備を進めます	熊谷駅周辺の国道17号を中心とする道路について、平成24年3月に熊谷市中心市街地道路空間整備計画(案)を策定しました。また事業を推進するために、平成25年度から29年度を目標とする熊谷市中心市街地地区都市再生整備計画を平成25年3月に策定しました。今後は、本計画に沿って事業を進めていきます。	★★
48	熊谷駅南北駅前交通広場の整備を進めます	県公安委員会と協議をする中で指摘された課題(熊谷駅正面口と東口を結ぶ市道80541号線の一方通行化を含む周辺道路の交通動線の整理)の解決に向け、平成23年度に交通量調査を実施し、検討を進めてきました。今後は、熊谷駅周辺の交通動線を中心とした社会実験を含めた調査を実施し、検討を進めます。	★

番号	政策提言	取組実績等	達成度
49	籠原駅北口周辺の電線地中化を進めます	籠原駅北口線の道路整備を実施するとともに、電線事業者との協議を進めています。既に国道17号線から221mの道路整備を実施し、残る59m部分の建物移転、道路整備を進め、電線地中化を進めていきます。	★
50	(仮称)熊谷西環状線の整備を進めます	平成21年度に埼玉県が事業に着手し、平成22年度は現況測量と道路詳細設計などを実施しました。また、平成23年度は用地測量を実施し、平成24年度と25年度は用地交渉を行っています。	★★
51	(仮称)南部東西幹線の整備を進めます	旧玉川熊谷線から旧東松山有料道路を結ぶ約250mの区間を優先整備する予定ですが、全体計画が未決定です。	—
52	(仮称)妻沼東西幹線の整備を進めます	県道熊谷太田線から東武熊谷線跡地までの間の用地交渉を優先的に進めています。平成23年度には弥下自治会の自治会館の移転も完了しました。今後も地権者の協力が得られるように交渉を継続していきます。	★
53	東武熊谷線跡地の道路の整備を進めます	平成25年3月に、第2北大通線(熊谷農業高校北側)から、大幡中学校北側市道までの区間647mの供用を開始しました。	★★★★

(6) 効率的な行財政経営を進めます

番号	政策提言	取組実績等	達成度
54	市職員の数を減らし、人件費を大幅に削減します	給与水準の適正化と、職員総数を85人を削減したことで、平成24年度の人件費は平成21年度と比べて17億9,623万5,000円の削減となりました。	★★★★
55	弾力的な財政運営を図るため、引き続き、市債を減額します	借入額を元利償還額以内に抑えることで市債の残高を減らしました。また、普通会計や下水道特別会計においては、公的資金の繰上償還を行うことで高金利の市債を減らしました。更に、臨時財政対策債については、発行可能額(上限)を下回る借入とし、起債額の抑制に努めました。これらの結果として、市債残高を114億6,151万1,000円削減しました。	★★★★
56	指定管理者制度等の導入を拡大し、利用者の利便の向上を図ります	「行政改革大綱」に基づき、公の施設のあり方を検証し、14の施設で指定管理者制度等を導入しました。これにより、指定管理者制度等を導入した施設は38施設となりました。	★★★★
57	新ハートフル・ミーティングを実施します	小学校区を対象にしたハートフル・ミーティングに加え、各種団体や中学校の生徒を対象にしたミーティングを実施し、計4,196人の皆さんとの意見交換を行いました。	★★★★
58	特定行政庁へ移行し、建築確認等の利便性を高めます	平成22年4月に特定行政庁へ移行し、全ての建築物の建築確認や許認可などの業務を行い、利便性を高めました。	★★★★